

No. 82

2010年 (平成22年)

11月1日

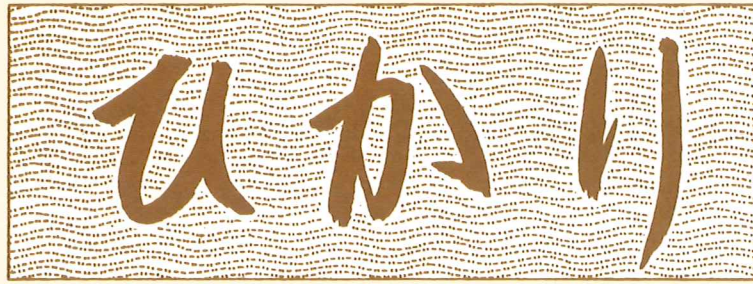
発行

浄土真宗本願寺派

和歌山教区日高組

責任者

鈴木悟峰



うまいうまい
宝の山のまるもらい
ナムアミダブと
申すお宝

妙好人 浅原才市翁



日高組キッズ・サンガ (子どもの集い)

あみだ
阿弥陀経に聞く

十劫の成道

『舍利弗、阿弥陀仏は、成仏よりこのかたいまに十劫なり』

成仏の話です。

アミダさまは、仏になられて以来、どの位経つたのかということ。『いまに十劫なり』とあります。今より計算して十劫の昔にということ。この「今」は、おシヤカさまがこの『小経』をお説きになっている「今」なのです。

劫とは、梵語カルパの音写で、インドの時間の単位です。『大智度論』には四十里四方の石を、百年に一度ずつ薄い衣で払って、その石が摩滅しても劫は尽きず(磐石劫)、また四十里四方の城に芥子を満たして、百年ごとに一粒ずつ取り出して、すべての芥子がなくなっても劫は尽きない(芥子劫)と述べられています。

この譬喩の石や城の大きさ、それに年数の示し方には諸説があります。私たちには考えられないような長い時間がありますが、しかし、無限ではありません。

ただ、仏さまは、永遠だけれども、アミダさまは人々を救うという願をかけてそのために修行して、成就した仏さまです。それによって、過去から今、未来へと私達は救われるのです。また、声聞弟子とか、阿羅漢とか菩薩衆とありますが、声聞とは、おシヤカ様のお声を直接聞いた人です。おシヤカ様の直弟子です。その方が阿羅漢という悟りを開いたということです。菩薩衆は、人々を救う菩薩さまです。

お浄土はきらびやかなところというだけではなく、あらゆる人もいるのです。そこには勿論すでに亡くなった人もいます。

俱会一処ということ。す。

(永原)

「お念仏をいただく」

修行精進を善とするお坊さんが、浄土真宗のお坊さんのことを「天ぷら坊主」と言っているとき、解りますか？ 浄土真宗のお坊さんは天ぷら、つまり、衣ばかり立派で、具・中身がないと。修行を中心とし善をばげむ方々の仏様と、お念仏を申す私達の阿弥陀様とは、まったく違った仏様とお出遭いしてると言えるでしょう。自力を良し(善)となさる方々は、いたって人間的思考・理屈の仏様を考えていらつしやる。仏教用語なら、雑行・雑修・自力が好き、な仏様、精進努力が好き、な仏様、強く賢く偉い人間を良しとする仏様。ゆえに解りやすいのかもしれない。しかし、この人間的思考は、良いか悪いか？ 損か得か？ 好きか嫌い？ 巨人か阪神か？ どこまでも判断の基準は自己中心。救済のな

かにいつも条件がござい

ます。仏様とは人間的な思考・理屈をお立てになるお方でしようか？ その仏様のまなざしに私は映りません。

阿弥陀様の焦点は私人に定まります。ナンマンドブツ：私を逃してなるものか、と声のお姿をおとりになつて、この身に充満いたします。頭の上から足の爪先はおるか、思いのうち愚痴・ため息・涙こぼれる端々にまで、余すところなく満ち満ちてくださいます。

御開山様の『正像末の御和讃』をいただきます。

「五濁悪世の有情の選択本願信ずれば不可称不可説不可思議の功德は行者の身にみどり」

(註釈版P六〇五)

阿弥陀様の眼には、天ぷらは天ぷらでも、お慈悲充滿・ナンマンドブツの功德がぎつしりつまっているのです。

最後に、私の作り話です。

母は年末、遠く離れた都会で、忙しく働く娘が心配で電話をいれます。「どう元気？ 帰ってくるの？」

「お母さん、今年は帰れそうにないわ。」さて、お母さん、裏の物置から10kg入るミカン箱を一つ、お正月に忙しく働く娘を思い荷物作り。ミカン一色の荷物は作りません。娘への思いが込められます。ミカンは半分、お米におもち、子供の頃から好きだった〇〇堂の力餅・新作よ！ 金山寺味噌も少々、小さな隙間には、去年つけた梅干しをビン詰めにして送ります。田舎げな荷物が娘に届く。「お母さんたら」と娘が思う。お母さんのありつたけが、そこに詰まっています。ナンマンドブツ、阿弥陀様が詰まっています。私を案ずる阿弥陀様が、私のこの身に満ち満ちて下さいます。ナンマンドブツがご一緒です。

(岩崎)

法悦クイズ

平成23年4月から平成24年1月まで、宗祖親鸞聖人の750回大遠忌法要が修行されます。親鸞聖人が、おもに活躍された時代は何時代ですか。次の1～4の中から1つ選んで、その番号を書いて下さい。

- 1 奈良 2 鎌倉 3 室町 4 江戸

81号の正解は、1の「和讃」でした。正解者の中から次の方に粗品を進呈いたします。

由良町 磯田 公子 様
由良町 畑中 宏之 様

由良町 小林 照代 様
御坊市 塩田 廣一 様

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、御感想、御意見等を明記の上、

〒649-1221
日高郡日高町志賀3851
善宗寺内 組長事務所
までお送りください。

※抽選で10名の方に粗品を差し上げます。

※締め切り日
平成23年1月31日必着

※発表は次号

「死の縁は 無量なり」

親鸞聖人は「死の縁は無量なり」といわれています。人は病気だけで死ぬのではなく、人を死なせる機縁は数限りなくあります。私たちが何が原因で死を迎えるか予想さえできません。親鸞聖人の申されるとおり

仏事に参られた方は、まずお仏壇の前にすんで、合掌礼拝します。そこまではよいのですが、無造作にリンをチンチンと打ち、お念仏をとねえる方がおられます。前の方が行ったことが正しいのではとみんながそれを真似てしまうと、仏前は騒然となりかねません。リンは、おつとめ前後や間に定められた作法で打ち鳴らす仏具です。むやみに打ち鳴らすものではないと、お念仏をたたかないと、お念仏が阿弥陀さまやご先祖に届かない。という方もおられます。

です。したがって私たちは、高齢化社会の時代死ぬときは楽に死にたい」「立派な死に方をしたい」などという、死に際まで色気など持たないほうがいいと思えます。死ぬときは、どのような死に方でも死ぬ縁のままに死んでいったらいいと思えます。

もまた一つの往生の有り方であります。「蓮如上人仰られ候。堺の日向屋は、三拾万貫を持たれども、死にたるが仏になり候まじ。大和の了妙は一枚の帷衣も一つをも着かね候へども、此度、仏になるべきよと仰られ候よしに候ふ」とあり。

(湯川)

門徒心得

仏前でリンはなぜ打つ

いうまでもなく、浄土真宗で私がとなえさせていただくお念仏は、信心をいただいた如来さまへのご恩報謝のお念仏です。

ですから、如来さまやご先祖にお届けしようということではないのです。リンを打つ由来は、お釈迦さまがご在世の頃か

ら、阿弥陀さまの教えを聞くときの合図だったといわれています。現在、私たちが在家の仏壇の鳴り物は通常リンだけですが、お寺では、おつとめの作法にもちいる以外に、梵鐘や喚鐘、太鼓のあるお寺もあつて、いずれも行事の合図に用いられています。お仏壇の前でリンを打つのは「只今からお経をおつとめします」という合図です。その音にあわせておつとめをいたします。おつとめをしない時は、リンを打つ必要はないのです。

(荻野)

日高組 キッズ・サンガ

第四回、日高組キッズ・サンガ(子どもの集い)が七月三十一日(日)、総代会・仏教婦人会・仏教壮年会・寺族婦人会の各会員の協力の元、組内の寺院から小学生児童三十三名が参加し、由良町横浜の光専寺に於いて開催されました。



また、昼食は、寺族婦人会員が手作りしたカレーライスを美味しく戴きました。食後の休憩時にはスパーボールすくいもあり夏休みの思い出となったことでしょう。来年も開催する予定です。子供さんやお孫さんをご参加して下さい。お待ちしております。



日高組寺院めぐり

西教寺(由良町衣奈)

第十八代住職 藤田孝雄
由緒沿革 「日高郡誌」には、
藤田某という越後の武士が石山
合戦で本願寺に加担して織田信
長の軍勢と奮戦、和議成立後、
衣奈浦に来て馬場楠松という人
の家を借り、そこを道場として
真宗の教義を伝えたのが開基と
記している。

これを裏付ける確かな資料は
ないが、石山本願寺の最大の味
方は紀州雑賀衆であった。天正
五年の信長軍の雑賀攻めに、由
良の門徒勢が援軍として参加し
たと伝えられている。また、当
時の本願寺第十一世顕如上人
が、天正八年四月九日、石山を
退去して紀州鷺森へ移ったこ
と、さらに同年、教如上人(顕
如上人の長男)が、日高町阿尾
の光徳寺第四世了春をたよって



阿尾へ避難していることなどか
ら推察すると、藤田某が紀州の
地に住む要因はあったと思われ
る。

また、「衣奈村郷土誌」には寛
永九年八月僧梅信開基」と記さ
れており、藤田某と梅信が同一
人物であるか否かは不明であ
る。しかし、本堂が寛永九年に
建立されていることや寛永十三
年八月に西教寺の寺号公称を許
されていることなどから、少な
くとも寛永以前より道場として
の形態は整っていたと思われる。
従って、当寺の開基は、顕
如上人が鷺森におられた天正十
二年前後とみるのが妥当ではな
からうか。

寛永十七年二月、本願寺第十
三世良如上人から、木仏本尊阿
弥陀如来を下賜された。
享保三年十二月に、近隣で火
災が発生し本堂も焼失した。過去帳
など、重要文書も焼失した。そ
の後、元文元年に本堂を再建、
さらに明治十六年に再建した。
また昭和十五年十月に屋根の
修復を行った。

大正十四年には、紀州では最
も古い由緒ある日高町高家の
「西円寺」が廃寺となり、その
檀家及び古文書類を伝持した。
この古文書の中には、紀州にお
ける真宗の流布を知るうえで、
貴重な資料とされている「一向
専修念仏名帳」が保存されてい
る。



なぜ日本人は信仰心が
薄いのか

日本人は一般的に、な
ぜ宗教に対する信仰心が
薄いのでしょうか。

大谷 キリスト教やイ
スラムの考え方で現代日
本人を見ると確かに信仰
心は薄いですが、日本の
な信仰心からいえば、暖
味なままに信仰心のある

日高組通信

☆行事報告

・日高組「子どもの集い」
(キッズ・サンガ)

第四回、日高組「子どもの
集い」が七月三十一日(日)、
日高組内の寺院から児童
三十二名、スタッフなど
浜の光専寺に於いて、開催さ
れました。

ご協力頂いた、総代会・仏
教婦人会連盟・壮年会・寺族
婦人会の各会員に御礼申し上
げます。(関連記事参照)

・総代会前期研修会
総代会前期研修会(第三回
組内寺院めぐり)が七月十八

薄いか

人は多いと思います。「宗
教」や「信仰」という言
葉を用いないで、たとえ
ば、初詣や節分、七夕
などの年中行事、また
七五三や神(仏)前結婚
式、葬儀等の通過儀礼な
ど、はつきりと意識され
なくても、暗黙のうちに
人間を超えた力が働くこ
とを認めています。その
意味で、これらは「宗教
性を帯びた行為」と言え
ると思います。そして、
このような儀礼を通して
自然の恵みに感謝した

り、家族や地域共同体の
繁栄を願ったりしてきま
した。また、天然自然の
移り変わりに同調して人
生を支えたりしてきたか
らだと思えます。

ただ今日、都市化や産
業化、IT化等で、昔か
らのものが頼りにならな
くなっています。周りに
合わせるのではなく、一
人ひとりが自分のいのち
を考えなければならぬ
時代です。

大谷光真「門主ご著作
「世のなか安穏なれ」より

日(日)、組内各寺院から
三十七名の参加により開催し
ました。

今回訪問させていただいた
寺院は、宝国寺・円明寺・教
専寺です。

円明寺では、町指定の文化
財、室町時代(一五一〇)と
裏書きされた阿弥陀如来絵像
の軸があり拝観させて頂い
た。

研修会後に懇親会が開催さ
れ、各寺院の現状など懇談し
親睦をはかりました。

・仏教婦人会連盟研修会

十月二十五日(月)、日高
町小浦の円行寺において各寺
院から仏教婦人会連盟会員が
参集し、「子どもの声が聞こ
えるお寺に、キッズサンガへ
のとどろくみ」と題して、講師

☆行事報告(予定)

・日高組「真宗法座」

日高組第十六回「真宗法座」
を次のとおり開催いたしま
す。

日時：十二月十九日(日)

午後一時三十分

場所：由良町大引 淨明寺

ご講師：奈良教区勝光寺

花岡静人師

何方でも参加できます。

お誘い合わせでご参加下さい。

なお、当日、日高組第八期
の連続研修会受講者の修了式
を行います。